

藤前干潟

(ふじまえひがた)

位置:北緯35度4分、東経136度50分／標高:-4.0～0.8m／面積:323ha／湿地のタイプ:河口干潟／保護の制度:国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地:愛知県名古屋市、飛鳥村／登録:2002年11月／国際登録基準:2、4、5／EAAFPネットワーク参加地

湿地のタイプ:河口干潟



干潮時の藤前干潟



オオソリハシシギ



上空から見た藤前干潟

湿地の概要:

愛知県と三重県にはさまれ、太平洋に面した伊勢湾には、木曾川や長良川、揖斐川など多くの河川が流れ込み、その河口部に広大な干潟が形成されてきた。しかし、港湾施設や工場、農地などの開発で次々と埋め立てられ、干潟は消失してきた。わずかに残ったのが伊勢湾の最奥部、名古屋市南西部の庄内川と新川、日光川の河口に広がる藤前干潟である。藤前干潟は、日本列島のほぼ中央部に位置し、南から北、北から南へ季節ごとに移動する渡り鳥にとって重要な中継地となっている。

この藤前干潟が、名古屋市の急増するゴミの処分場として埋め立てられること

になった。しかし、干潟を守れと市民が立ち上がり、大きな社会問題となった。日本中が注目した。1999年、名古屋市は計画を撤回した。そして2002年、藤前干潟は条約湿地に登録された。

干潟とゴミ問題:

干潟保全のために名古屋市民は、自らゴミの減量に取り組み、事業者、市民と行政が一体となった努力により藤前干潟を救ったのである。藤前干潟は渡り鳥にとって重要であるだけでなく、人々に消費型社会を問い直し、循環型社会に向けた行動を起こさせる場となったのである。

フライウェイ:

藤前干潟には植生は見られない。しかし、ゴカイや貝類などの底生動物は豊富

にある。干潮時、藤前干潟はそれらを餌とするシギやチドリなど多くの渡り鳥でいっぱいになる。シベリアで繁殖し、南半球のオセアニア地域で越冬するシギ・チドリ類の渡りの中継地として、そのライフサイクルにとって、藤前干潟は重要な位置を占めている。ハマシギやダイゼン、ダイシャクシギなどのシギ・チドリ類はじめ、年間2万羽以上の水鳥が渡来、利用している。

【ハマシギ】全長21cm。くちばしはやや長めで、首が短く、猫背のような姿のシギ。翼の上面に白い帯があり、群れて飛ぶとき、反転すると白が美しいコントラストを描く。

【オオソリハシシギ】シギにはくちばしの長い仲間が多くいる。干潟でカニの穴などに差し込むためである。真っ直ぐなくちばしのオグロシギ、下に曲がったダイシャクシギ、そしてオオソリハシシギのくちばしは上に反っている。

●関係自治体

名古屋市役所 Tel: 052-961-1111

飛鳥村役場 Tel: 0567-52-1231

